

東京の夜空はまっくろ実家から見えた星座が見えそうに
ない

真っ白で綺麗なあなたの二の腕を独占したくて秋にして
みた

感情を赤子の如く生み出して生まれた形で消費してたい
雨と君の匂いが部屋に満ちていくああもう夏の終わりは
近い

一人での散歩が多くなったから誰より早く歩いてしまっ

味 飼犬のウンチの袋を閉じるとき喉の奥のちよつぷり酸

桜散り蝉が鳴くらし八月の暑さを洗い流す秋雨

恋人であった人と見てたから映画つける前ひと息ほしい

思い出す時間の分子が減っていくまた恋心の終わりと思
う

本棚の本が出かけた隙間から見える本の表紙は鈍い

理不尽な死に最後まで抵抗す。生命いのちのしなり蜜柑を握ぐ
とき

もう君と来ることのない海をみて帰る瞬間背を押す海風

ひともんか

竹下太崇